

令和6年度第1回 新宿区リサイクル清掃審議会 議事要旨

1 日 時 令和6年5月23日（木）午前10時～正午

2 場 所 新宿区役所第二分庁舎分館1階会議室

3 出席者

【委 員】

出席（18名）

会 長	小野田 弘 士	副 会 長	崎 田 裕 子
委 員	松 川 英 夫	委 員	藤 井 練 和
委 員	唐 沢 吉 治	委 員	安 井 潤一郎
委 員	西 郷 直 紀	委 員	松 永 健
委 員	板 本 由 恵	委 員	田 中 孝 幸
委 員	松 永 多恵子	委 員	福 本 弘
委 員	高 野 健	委 員	石 橋 朋 子
委 員	上 野 昭 子	委 員	尾 町 仁 美
委 員	渡 邊 翠	委 員	村 上 道 明

欠席（4名）

委 員	奥 真 美	委 員	露 木 勝
委 員	吉 江 淑 子	委 員	反 田 麻 理

【新宿区】

ごみ減量リサイクル課長、環境対策課長、新宿清掃事務所長、清掃事業担当副参事、
ごみ減量計画係長、新宿清掃事務所事業係長

4 次 第

(1) 開 会

(2) 議事等

① 新宿区第三次実行計画における環境清掃部所管事業【資料1】

② プラスチックの資源化に係る取組み【資料2】

③ 令和5年度集団回収実践団体アンケートの実施結果【資料3-1・3-2・3-3】

(3) その他

(4) 閉 会

5 議事内容

上記議事について区から説明し、質疑応答を行った。各委員からの質問や意見、区の回答の要旨については以下のとおり。

① 新宿区第三次実行計画における環境清掃部所管事業

質疑なし

② プラスチックの資源化に係る取組み

○上野委員 分別の周知について、外国人に向けた方法として、日本語学校での教育を取り入れてはどうか。

○事務局 日本語学校へ出向くことも含め、様々な周知の手法を検討していく。

○藤井委員 実際の分別作業の現場を認識することで分別の重要性への理解が深まると思う。特に、事業系のごみについて徹底されていないのでその点の周知をお願いしたい。

○事務局 ホームページで中間処理を含めた現場の様子をみることはできるが、直接に現場を見られる機会も作るができるよう、今後検討する。また、事業者に対しても協力してもらえよう働きかけていく。

○渡邊委員 複合プラスチックはどのようにリサイクルしていくのか。

○事務局 現状は金属等、単一でないプラスチックの機械的な選別が困難であるが、そのような複合プラスチックの資源化も今後検討していく。

○藤井委員 プラスチックのリサイクル業者の許容範囲は広がっているので、区として

どのような方向にリサイクルを進めていくかを決めていくことが重要だと思う。

○事務局 業者によってどこまでリサイクルできるか異なるため、審議会での意見を、3年後の業者の選定の参考にしたい。区としては全てのプラスチック製品を資源化する方向性を定めている。業者と情報共有しながら今後の計画改定で全量のリサイクルを目指す。

○崎田副会長 分別について区民が明確に自覚する情報を提供してほしい。

○事務局 定期的な周知も含め、情報提供に努める。

○唐沢委員 食品トレーの話になるが、使用素材を刻印すれば分別しやすくなると思う。

○崎田委員 トレーについては身近なスーパー等で回収ボックスが増えているので、まずそこで分けてほしいと思う。

○事務局 トレーへの刻印は、法律の根拠がなければ条例として義務化できず、体系的に難しいため、製造者を含めた事業者への自主的な取扱いをお願いすることになる。区、事業者、区民で構成している3R推進協議会で協力し、事業者へ呼びかけていく。

③ 令和5年度集団回収実践団体アンケートの実施結果

○渡邊委員 管理組合による集団回収と町会、自治会による集団回収とでは問題が異なる。そこを分けてアンケートを実施してほしい。また、保管場所の不足が問題となっているが、空き家等を活用して資源を保管できる場所を設けてもらいたい。

○事務局 指摘の通り、アンケートの集計方法が異なる性質で分けられておらず、課題を把握できなかったため、次回の集計で改善する。資源の保管場所については、例えば道路の拡幅をする際に東京都から借入可能な土地がないか等、引き続き検討していく。

○松永（多）委員 集団回収の資源を業者が回収する頻度を、月に一度から二度に増やすことはできないか。増えれば集団回収への協力がより集まると思う。

○事務局 回収業者に支援金を出してはいるが、古紙の市況に影響される側面がある。ただ、回収の頻度を増やすことができないか、業者に伝えていきたい。

○崎田副会長 アンケートの回答率が65.6%だったので、多くの人が答えやすい設問で、現状の課題が把握できるよう作成してほしい。また、子どもや大学生にも集団回収に関心をもってもらえるよう取組んでほしい。

○事務局 回答率をさらに上げられるよう、アンケートを工夫する。子どもや大学生への集団回収のアピールについては、楽しく学ぶという発想を持ち、地域に呼びかける。区と大学生とのチャンネルはないが、そこも含め、多方面に呼びかけられるよう努力する。

また、環境学習、環境教育の一環として、副教材を作成し、区立の小学校で今年度配布することで、リサイクルの意義、重要性、仕方を子どもたちに伝えていく。

○**上野委員** 座学よりは、実際に身体を動かして学んだ方がよいと思う。

○**事務局** 環境学習の一環として、学校に出向いて分別ゲームを行っているので、楽しく学んでもらえるよう引続き取組んでいく。

○**渡邊委員** 以前はPTAの中で集団回収があったので、それが盛り上がればよいと思う。また集団回収は、資源を集めるだけでなく、人と人との繋がりを生み出すものであるから、継続していけるように支援いただきたい。

○**事務局** 学校との連携については、相手方の事情も考慮しながら幅広く声をかけていく。集団回収への支援拡充についても、引続き検討していく。

○**高野委員** アンケートについて、区民の意識調査をしているだけのように見える。区民に寄り添ったデータの取り方をしてほしい。

○**事務局** 集団回収実践団体とはコミュニケーションをとる機会を設けており、今年度も懇談会を開催する予定。その中でさらに寄り添ったアンケートができないか模索する。

○**崎田副会長** モニター調査を通じ食品ロスの削減の意識付けに繋がることがデータが示されている。これを活用しながら、一人ひとりにとってごみを減らす意識啓発に繋がる機運を高めたい。

○**事務局** モニター調査は今後も注力していく。データを集めるだけでなく、効果があるところは意識啓発に繋げていく。また、今年度も区民向けのガイドブックの作成や区のイベントでパネル化をするなど、引続き啓発していく。